

二十三の武器を活かして

小山 優太

私は現在学部四年に所属しています。同期の仲間恵まれ、とても充実した学生生活を送ることができています。運動会をやったり、旅行に行ったり、自分たちで計画を立てて企画を運営できる人が多く、みんなで集まって楽しめる行事がたくさんあります。もちろん真面目に勉強するときもあり、そんな時も学校に集まって教え合いながら協力して高め合い、とても仲間意識が強い学年だと思っています。

その中でも特に恵まれたと感じることは、多方面にわたる専門性を持った仲間たちがいるということです。テニス、卓球、ソフトボール、バレーボールなどスポーツを武器にする人、バンド活動、吹奏楽など音楽を武器にする人、お笑い、アニメ、漫画、アイドルの応援など趣味をきわめて武器とする人、国語以外の武器を持った個性的な仲間と過ごすことで私自身の視野も広がりました。

私が武器とするものは小学生のころから続けているサッカーです。大学に入学してしばらくはサッカーへの思いが強く、卒業後はサッカーの指導者として働いていくことを考えていましたが、三年次の教育実習Ⅰの中で生徒から学ぶことの魅力に気づき、そこから教職への思いが強くなりました。

今はその武器を活かし、国語と結び付けてサッカーのピッチ内で行われているコミュニケーションの発達について研究を進めています。この研究を活かし、卒業後は国語の教師になってサッカー部の顧問をすることが今の目標です。

（こやま ゆうた 信州大学教育学部国語教育コース四年）